

# Center News

センターニュース  
December  
2009  
No.12

— 愛知大学三遠南信地域連携センター —  
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業



## CONTENTS

### ●卷頭言…1

### ●センター事業の取り組み状況…2

- ・今後の三遠南信地域連携センターについて
- ・外部評価委員報告
- ・教育・人材育成事業中間報告
- ・地域づくりトータルシステム事業中間報告
- ・地域づくり情報システム整備事業中間報告

### ●センター・トピックス…5

- ・コミュニティカレッジ「三遠南信の食を考える」を開催
- ・「豊橋・東三河の雇用事情」公開講演会の開催
- ・第17回「三遠南信サミット2009in東三河」が豊橋で開催

### ・豊橋駅前商店街に「愛大生の店:だがしかん」がオープン

### ・長野県壳木村「秋色感謝祭・新米まつり」に参加

### ・「穂の国エコカレッジ」はじまる

### ・三遠南信地域連携センターWEBサイト再構築のご案内

### ●地域づくりサポーターの活動から…10

- ・豊橋駅前商店街での駄菓子販売
- ・水源の里と連携して野菜販売
- ・サマーカレッジチャレンジショップ

### ●三遠南信地域連携センター活動記録(2009.4~2009.10)…11

### ●編集後記…12

## ◆卷頭言◆

## 三遠南信地域 連携から融合へ



飯田下伊那(南信)地域は長野県南端に位置しており、飯田市から東京へは4時間半、県庁所在地である長野へは3時間を使わなければなりません。それだけに三遠南信地域連携の進捗に、当地域将来の可能性を託していると言っても過言ではありません。

古より東三河や遠州地域とは秋葉街道や遠州街道を通じ、また天竜川を通じ、近代に入ってからは現JR飯田線を通じ、生活・文化の多くを共有してきました。

その後の交通環境の展開は、この三遠南信地域は同じ文化圏にありながら、むしろその接点を不便なものとして参りました。

三遠南信自動車道は、漸く三地域の地理上の距離と時間を等しくする待望の道路であり、一日も早い開通を切実に待つところです。

この開通を視野に入れながら、飯田市で開催の三遠南信サミットにおいて、三遠南信地域連携ビジョンが提案され、今年度から「三遠南信地域連携ビ

飯田商工会議所 会頭 宮島 八束

ジョン推進会議(SENA)」が発足し、愈々共通の地域連携事業・地域づくりが地についてスタートしました。毎年に亘り様々な連携や地域づくりが模索されてきましたが、ここに共通の地域を形成するための実働組織が誕生し、今後の進展に大いに期待するところです。

そんな中で、11月13日豊橋市において、「第17回三遠南信サミット」が開催され、①交流連携の要となる道路等の早期開通、②産学官の連携事業や大学・研究機関の連携と人材育成、③情報発信や地域資源のネットワーク化、④流域定住推進モデルの形成、等について参加するすべての主体が確認し、連携から融合に向けて進むことが宣言され、確実な成果を挙げるべく、関係するすべての組織や住民が手を携え共に汗を流し、頑張って行くことを確認しました。飯田商工会議所も南信の地域において、まず出来ることを再確認し実践し実を挙げていきたいと思っております。

「愛知大学三遠南信地域連携センター」におかれましては、サミット宣言の進捗やビジョン推進による目指すべき地域形成のために、研究や連携の結節機能ほか大きな役割を果たしていただきたく大いにご期待申し上げます。

# センター事業の取り組み状況

## 今後の三遠南信地域連携センターについて

センター長 岩崎 正弥

連携センターは2004年10月に設置された。設立にさいし、当時の学内理事会で「5年程度経過した時点でセンターの存続につき見直すことにしている」との確認がなされている。この確認に基づいて、ちょうど5年目を迎えた今年度、ポスト・センターに向けた構想を夏に取りまとめ、常任理事会に提出した。(なお文科省の私立大学学術研究高度化推進事業〈社会連携〉に関わる補助金交付は2010年3月で終了。)

2009年11月現在、依然として未定の部分が多く、明確な方針は提示できないが、おおよその方向は以下のとおりである。

### 1)新たに「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」への申請予定

これは現行の「グローカルな視点に立った『地域づくり』トータルシステムの開発」事業の継承という位置付けである。わけても地域情報システム基盤の確立を目指しデータベース・GIS(地理情報システム)の研究を進めてきたが、この部分に集中して新たな展開を目指す研究を考えている。外部評価委員の指摘にもあったように、まだGISを地域づくりのツールとして活用する仕組みを現連携センターでは開発できていない。自治体の政策決定に資するツールとしての開発は進められつつあ

るが、さらに人材育成も含めた研究計画を現在検討し、来年1月もしくは2月には文科省への申請を予定している。(なお2010年3月末には採択の可否がわかる予定。)

### 2)連携部門・人材育成部門の休止、一部大学事務への移管

この部分は原則として2010年4月以降の連携センターでは担当しない方向で調整を進めている。今後は事業自体の休止(廃止)、必要なものは大学事務への移管の仕分けをしていく予定である。残念ながら、地元から高い評価を受けていた学生センター制度は廃止せざるをえない状況にいたった。ここに関わる諸事業は、したがって次年度は原則として行えないことになる。

ただし2011年4月に開校予定の地域政策学部に、とりわけ人材育成に関わる事業は継承されることになるだろう。同時に、外部評価委員の指摘にもあったように、学内連携・学内資源の有効活用を促進するために、愛知大学として、あるいは豊橋キャンパスとして、一元的な地域連携機能を考えざるをえない。連携センターのこれまでの活動を発展的に継承させるための仕組みづくりの検討を、早急に進めなければならないと私個人は強く考えている。

## 外部評価委員報告

センター長 岩崎 正弥

連携センター4年度終了時に外部評価委員4名を選定し(東北公益文化大学前学長・小松隆二氏、財団法人日本地域開発センター主任研究員・北川泰三氏、社団法人東三河地域研究センター常務理事・戸田敏行氏、財団法人日本開発構想研究所研究主管・近藤共子氏)、1「全般的評価」、2「特に評価できる点」、3「改善を必要とする点(さらに期待する点)」、4「その他」の4項目で評価をしていただいた。簡単に概要を紹介したいとおもう。

### 1.全般的評価

研究に特化した研究所体制ではなく、あえて「連携センター」との名称を付したように、地域連携を積極的に研究・教育と結びつけよ

うとしている点を高く評価していただいた。例えば連携センター会議を設定し、学内委員にとどまらず、広く地域の各機関の代表をメンバーに据えている点、また幾つかの事業を掲げ基礎研究から応用研究・現場検証にいたるまで総合的な観点から地域づくりに寄与しようという志を持っている点に注目をしていただいた。

### 2.特に評価できる点

上記と重なる面があるが主な評価を列挙しておこう。①「県境を跨ぐという越境地域におけるプラットフォーム機能」、②「地域内在型の研究プロセス(地域の中に大学を、大学の中に地域を)」、③「実践的な人材育成プロセス(学

生地域づくりサポーター、流域大学等修了生の活躍など)」、④「小さな自治への注目」、⑤「地域の基礎データの蓄積」、⑥「センターニュース、報告書、ブックレット等による情報発信」などを挙げることができる。

ただこれらの評価は期待のあらわれでもあり、そのことは次の改善を要する点と重なっていることに注意すべきであろう。

### 3.改善を要する点

#### ①学内連携、学内資源の有効活用の促進

すでに2007年度の(財)大学基準協会による愛知大学評価において、連携センターについては「さらに全学的な取組として発展させ…」との指摘を受けていた。学内の資源を有効に活用し全学的な地域連携・地域貢献への取り組みが今後ますます重要になるであろう。一方で教員アドバイザー制度という仕組みには評価をいただきながらも、その実際の効果的な運用も求められる。

#### ②戦略的な取りまとめの必要性

一方では総合的な地域づくりへの取り組みに対して高い評価をいただいたが、他方ではその取りまとめに対して注文も受けている。すなわち、連携センターの事業が総合的であるだけに、地域課題に対し優先順位をつ

け、その解決のためのタイムスパンを設定しての戦略的な取りまとめが必要ではないかとの指摘である。

#### ③地域づくりガイドライン、GISの地域づくり現場への適用方法

地域づくりガイドラインやGISの仕組みをつくっても、それを現場において適用・活用する取り組みが遅れていることは事実である。今後ご指摘のとおり、いかに地域現場で適用・活用できるかの手法や、実際の政策・社会実験の実施が必要となるだろう。

#### ④情報発信方法の工夫

情報発信も一方では高い評価を受けたが、一定の地域内にとどまっているとの指摘も同時に受けた。市民に読みやすい新書版での普及、全国に向けた「三遠南信」の発信の必要性といった注文をいただいた。

### 4.総括

大学の地域連携・地域貢献は大学と地域との間の信頼関係に基づいている。愛知大学が、大学創設時の理念「地域社会への貢献」を闡明にする以上、今後は大学(教職員、学生)を挙げての取り組みが不可欠となる。そのための第一歩が連携センターのこれまでの活動であると総括しておきたい。

## 教育・人材育成事業中間報告

事業責任者 岸本恵次郎

### (1)2008年度愛知県豊川流域圏づくり推進委託事業に参加した3団体は、2009年度引き続いてセンターの「地域づくり共同提案事業」に採択され、活動を継続されている。

まいパンク協議会の「水の再生をめざす環境保全活動と交流推進事業」は、新城工コフアーマー、梅田川フォーラム、前芝・渥美フォーラムで年間20回に及ぶ活動(作業、観察・清掃、調査、交流等)を行っている。

豊川リバーウォーク準備委員会は、昨年作成したリバーウォーク8コースの実地検証とその体験を踏まえてのミニイベントを11月7日・14日に上流域と下流域で実施した。

豊川流域研究会は、お年寄りからの戦後の暮らし聞き取り調査を豊川市当古町で実施し、5回にわたって聞き取りを行い、現在そのとりまとめを行っている。

### (2)三遠南信コミュニティカレッジは、前半の6月か



ら7月にかけて「食を考える」6回の講座を行うとともに、後半の11月に「豊橋・東三河の雇用事情」の公開講演会を行った(詳細はいずれもセンタートピックス参照)。

### (3)サポーターは、昨年から模索していた駄菓子事業を駿前ときわ通り「逸品館」およびこども未来館(ココニコ)で行うとともに、東栄町の野菜

販売をはじめしており、12月いっぱい継続する。「だがしかん」の看板を掲げて、駄菓子販売は子どもの遊び場創出、野菜販売は高齢者支援、水源地保全を目的とし、いずれもときわ通りの賑わいをめざしている。両グループとも活動目標を設定し、毎回活動日誌を記すとともに、RAによる月次報告書を作成するなど、サポーター活動の意義を確認しながらすすめている。

(4)七郷一色ウイークエンドセミナーは、今年で4年目を迎え、技科大、本学ともに2回づつセミナーを担当した。本年度はとよがわ流域大学修了生の活動報告をテーマに、7月はまいパンク協議会、11月は豊川リバーウォーク準備委員会に報告いただいた。また、7月は地区の納涼会、10月は体育祭りにもサポーターといっしょに参加して交流を深めた。

## 地域づくりトータルシステム事業中間報告

事業責任者　黍嶋 久好

### 1)三遠南信地域づくり読本の制作

連携センターの三部門の事業担当者が中心となり『三遠南信地域づくりの読本』の制作作業を進めており、本年度末の刊行を予定している。制作に関連して3回の公開勉強会を開催した。5月8日に東三河地域研究センター・戸田敏行氏を講師として「三遠南信とは何か」、5月29日には愛知大学文学部樫村愛子教授から「地域づくりというイデオロギーをめぐって」、10月2日は、愛知産業大学大学院教授延藤安弘氏から「『まち育て』を育む」をテーマとして開催した。

### 2)東栄町との連携事業

平成20年度に東栄町から「元気なまちづくり推進事業調査」を受託し東薗目地区で集落調査を実施した。その結果報告を7月25日に東薗目地区において開催した。

東薗目地区には、国の重要無形文化財指定の

「花祭り」があり、「和太鼓集団・志多ら」が活動拠点をおく地区でもある。7月の報告会以降、元気なまちづくり活動の立ち上げにむけて、地元、センター、学生の地域づくりサポーターを交えて協議を行っている。

3)豊橋技術科学大学と愛知大学との連携融合事業は四年目となる。「県境を跨ぐ工コ地域づくり戦略プラン研究会」のうち「人材育成・意識啓発アクションプログラム」の部会を本学が担当している。6月2日には研究会の総会が開催され、連携センター長の岩崎正弥教授が研究会の副会長に就任した。人材育成・意識啓発アクションプログラム部会には、豊橋技科大、愛知大、静岡県、愛知県、新城市、飯田市、NPOから参加があり第一回を7月15日に開催し以後、豊橋技科大、愛知大で作業検討会を行っている。

## 地域づくり情報システム整備事業中間報告

事業責任者　蔣　湧

### 1. 東栄町との連携事業について

地域連携型のGIS統合システムについて、大学構内での基幹システム構築の作業は既に終え、現在、空間データベースの整備が継続的に行われている。一方、学外の関連システムの試作は、今年度から東栄町を拠点に開発が行われている。また東栄町の既存業務システムと愛大の空間情報システムを連携した「東栄町の財産管理システム」を開発している。その中間結果は、今年度のGIS学会に報告した。

### 2. GIS普及事業・高大連携について

豊橋商業高校による52回目の「交通量調査」が10月20日に行われた。今回の調査では、愛大のGPS機器を使った体験学習がはじめて試みられ



れた。伝統のある「交通量調査」を通して、GISの普及活動を図るのが目的である。

この取り組みは4回の活動が予定されている。

- (1) GISの紹介とGPS操作法の講義(10月6日・愛大)
- (2) 交通量調査現場でのGPSの操作指導(10月20日・商業高校)
- (3) 交通量調査のデータ処理、GISマップ作製演習(11月17日・愛大)
- (4) 成果発表

3. 10月15日・16日に、新潟県新潟市で開催された第8回「地理情報システム学会、学術研究発表大会」に以下の2件の研究成果を発表した。

- (1) 「地域連携型のGISシステム構築に向けた取り組み」、佐藤正之、澤田貴行、陶俊、西尾美德、蒋湧
- (2) 「ArcObjectを用いた行政向けのGIS-Basedツールの開発」、澤田貴行、蒋湧

## センター・トピックス

### コミュニティカレッジ「三遠南信の食を考える」を開催

2009年度の三遠南信コミュニティカレッジは、「食」をテーマに6月20日を皮切りに7月25日まで6回の講座がもたれた。第1回は、加藤勝敏氏(東三河地域研究センター調査研究室長)の「三遠南信の食の現在とこれから」で、三遠南信地域の農業、農産物の現状、食農関連産業の集積、連携活動、商品づくり、今後の課題などが取り上げられた。第2回は、功刀副学長に「食における安全・安心の現状と課題」として、食品安全の考え方、安全と安心の違い、食品安全の確保に必要なことなどにつき分かりやすく話していただいた。第3回は、中野和久氏(サイエンスコア代表取締役専務)に「食による地域振興の取組み」と題して、サイエンスコアが取り組んできた

地域資源の活用、創業支援、農商工連携、技術力向上支援等について紹介いただいた。第4回から第6回までは、遠州における地域ブランド「やらまいか浜松」、なかでも「三方原ポテトチップス」の取組みを中野眞氏に、南信州・浪合のトンキラ農園での取組みを岡本美幸農園代表に、東三河では、「あぐりパーク食菜村」の取組みを白井良始JA豊橋組合長にそれぞれお話をいただいた。

今回の「食」講座で、全国有数の農産物生産地域であり、農商工連携、食・農連携などの取組み



がすすめられていること、食品の安全への関心が高まるなかで農商工連携にかかる人材育成への期待が大きいことなどが明らかにされた。この分野でも、産官学連携の重要性が浮き彫りになった。

### 「豊橋・東三河の雇用事情」公開講演会の開催

11月20日(金)17時より19時まで、人材育成事業の一環として、昨秋来大問題となっている雇用・労働問題に関わる公開講演会を開催した。

従来連携センターは「新たな公」の創造を目指して、多様な主体との連携を実施し、三遠南信各エリアの地域づくり支援活動も行ってきた。しかし「新たな公」

を担う主体は行政・産業界ばかりではなく、住民組織(NPO法人)が重要な役割を果すことはいうまでもない。連携センターの設立趣旨でもこのことをうたっていた。

そこで今回は設立趣旨の原点をいま一度見直し、愛知大学・連携センターの立地する豊橋の今抱えている深刻な課題としての

労働・雇用問題を取り上げ(しかも雇用は人材育成の重要な柱である)、雇用問題・派遣問題の総論に加え、実際に現場で活躍されている二つの住民組織の代表に現場報告をしていただくという公開講演会を企画した。

スピーカーと演題は下記の通りである。

1) 竹内晴夫氏(本学経済学部

- 教授)  
「日本の雇用の現状－派遣労働」  
2)高島史弘氏(豊橋サマリヤ会、豊橋派遣村村長)  
「ホームレスと派遣村の実態」  
3)山元梢氏・小野田美紀氏(NPO法人外国人就労支援センター)  
「外国人就労支援活動の実態」

当日は、約30名の一般市民、教職員、学生の参加があった。驚いたことに、高校生の参加もあり、雇用問題の関心の高さがうかがえた。竹内先生は派遣労働の法制度や仕組み、問題点などとともに、欧州との比較で今後の派遣労働のあり方に対する問題提起をしていただいた。高島

氏は10年にわたるホームレス自立支援の活動、豊川と豊橋で開設しているグループホームの実際、今年5月と10月の二度にわたる派遣村の実態に関する詳細かつ生々しい現実のお話をてい

ただいた。山元氏・小野田氏は本学のOGであり、外国人就労支援センターの活動内容、特に研修の実際、農業現場とのマッチング、個人経営主の日本人向け業務拡大への支援など具体的な報告をしていただいた。

2時間という枠の中で三名の報告と質疑応答という、かなりタ



イトなスケジュールではあったが、フロアから何人もの質問がでて活発な議論がかわされ、また講演会終了後も一部の人たちが残り個人的にスピーカーとの話し合いも行われた。

なお本公開講演会の模様は、中日新聞の東三河版に翌11月21日(土)に掲載された。

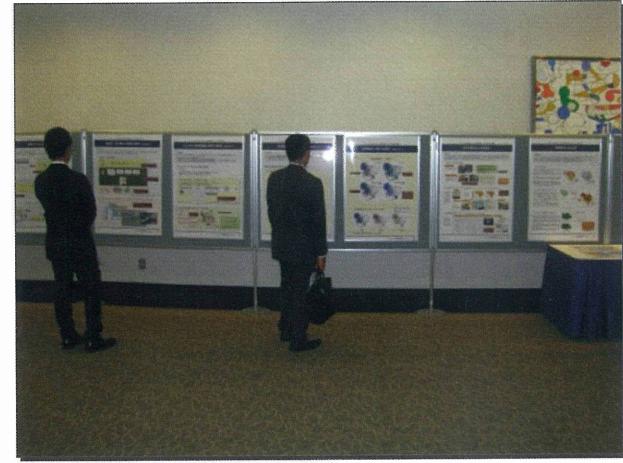
## 第17回「三遠南信サミット2009 in 東三河」が豊橋で開催

「三遠南信サミット2009 in 東三河」が去る11月13日にホテル日航豊橋で開催され、行政、経済界および住民500人が参加した。第17回目の開催となる今回のサミットは、SENA(三遠南信地域連携ビジョン推進会議)が主催する初のサミットである。午前の部では住民セッションが設けられ、午後からはサミットの全体会、分科会、報告会が行われた。

今回のサミットのテーマは「日本の県境連携モデルの構築～三遠南信地域連携ビジョンの実現に向けて」で、「道」「技」「風土」「山・住」の四つの分科会が設置された。午前の住民セッションも、分科会の四つのテーマに合わせて、それぞれ四つのグループに分かれたテーマ別意見交換会が行われ、午後の分科会においては、「行政界」「経済界」「住民団体」が同じテーブルに

着き、内容の濃い議論が交わされた。その中で、岩崎センター長が「技」分科会のコーディネーターを務め、三遠南信地域連携ビジョンの実現をめぐって、活発な意見交換が行われた。

今回はSENAが主催する初めてのサミットであったこともあり、各主体のSENAへの期待値の高いことがうかがえる。とりわけ、住民セッションにおいては、住民団体のプラット



ホーム組織の具体的なあり方にについて検討され、今後住民団体の連携組織の形成にあたって、三遠南信地域連携ビジョンを推進するSENAの協力が求められた。また、当日のサミット宣言に明

示されたように三遠南信地域の「連携から融合に向けて」の具体的な取り組みが、今後ますます注目を集めこととなるであろう。

当日、当センターはサミットの

開催に合わせて、地域情報システムの研究と開発について、これまでの成果、現在進行中のプロジェクトと今後の計画などを含めてパネル展示にて紹介した。

## 豊橋駅前商店街に「愛大生の店:だがしかん」がオープン

ゴールデンウィーク明けの5月9日、「愛大生の店:だがしかん」が豊橋駅前ときわ通り商店街のときわ逸品館内にオープンし、毎週土曜日にサポーターによる営業活動が行われている。近年、中小都市の駅前商店街では空き店舗が目立ち、商店街自体の活気が失われている。この活動では、そういう現状を机上で学習するだけではなく、地域づくり活動の一環として実際の商店街で活動することで、現代の商店街の抱える問題点などの認識することを目的としている。

また、この「だがしかん」の目標は、「多世代間交流の実現」であり、そのため駄菓子だけではなく、同じ店内で野菜販売を行っていることも今回の活動の特徴である。これはサポーターたちの目指す「多世代間交流の実現」について議論が行われた結果事業化されたものであり、野菜の販売自体はコミュニティ・サポート(CS)班が行っている。この野菜はCS班の事業ということもあり、愛知県東栄町で生産されている余剰野菜を利用し、中山間地域と都市部をつなぐ役目を担っている。

このように、駄菓子と野菜という2つを同時に販売することで、子供たちだけではなく大人をも対象にし、サポーターの目標である「多世代間交流」が実現できるよう、また地元商店街の方たちとの交流も念頭におきつつ、営業活動が精力的に行われてきた。

また、駄菓子は月1回、野菜は月2回、豊橋市民病院跡地に昨年建設された「こども未来館(ここにこ)」において、活動の宣伝を兼ねた大々的な販売活動を行っている。そこでは多くの親子連れが来店し、駄菓子や野菜を購入する光景が見られる。

販売活動では、さまざまな問題が発生するが、ひとつひとつ根気よく向き合い解決することで、よ

り自分たちの設定した目標が達成できるよう、サポーターたちは一生懸命である。なお、最後の営業は12月26日(土)となっており、最終営業に向けてサポーターたちも意欲的に活動に臨んでいる。



## 長野県壳木村「秋色感謝祭・新米まつり」に参加

去る11月1日、長野県壳木村で開催された「秋色感謝祭・新米まつり」に、今年もサポーターが参加して駄菓子販売を行い、

地域住民の方や祭りへの参加者たちとの交流活動を行った。今年は8名のサポーターが参加し、内6名は当日朝7時からの準備

のため現地に前泊した。

このイベントには昨年度も参加しているサポーターがいるため、準備等も特に問題なく無事

開店を迎えた。当時は、地元の子供たちや親子連れ、祭りへの参加者など、大人と子供合わせて合計300人以上が来店し、さまざまな参加ブースの中で最も賑わった店舗となっていた。午後からは天候が崩れてしまったものの来店者が減少することはなく、また閉店まで客足が途切れることがなかった。

このイベントに参加したサポートの中には、売木村という地を初めて訪問したというサポートもあり、このような活動に参加することによって、これまで目を向けたことのなかった地域を知り、体験するという良い機会を得たのではないだろうか。

当日、会場では小中学生の太鼓演奏や地元で生産された野菜の販売、自転車ツーリングやツリークライミングなど、さまざまなイベントが催されていた。また、恒例のジャンボ五平餅作りでは、

サポートが全面協力態勢をとり、今年収穫されたばかりの新米を使って特大の五平餅を製作した。松村村長の陣頭指揮の下、製作されたジャンボ五平餅は、村長曰く「これまで最も良い出来栄え」との評価を頂いた。それはサポートたちの労が報われた瞬間でもあり、その後、地域住民の方たちと交流しながら五平餅を配つたことあわせて、その味とともに

サポートの心に残る活動とな



ったに違いない。

## 「穂の国エコカレッジ」はじまる

2008年度から愛知県、豊橋市、愛知大学、NPO法人穂の国森づくりの会、豊橋うみがめクラブ、NPO法人東三河自然観察会、東三河懇話会が中心となって組織した協議会「東三河自然環境ネット」は、環境省の支援をえながら東三河における生物多様性保全活動をすすめている。また、この事業は2010年度に愛知県・

名古屋市で開催されるCOP 10のパートナーシップ事業としても行われるものである。

2009年度は、協議会の中心的な事業である「穂の国エコカレッジ」がスタートした。これは、2年間にわたって生物多様性にかんする基礎的、応用的な学習を行うとともに、フィールドワークをふんだんに組み込んだカリ

キュラムを用意し、2年間の課程修了者には「生物多様性保全技能士・穂の国総合案内人」の称号を付与することになっている。

「エコカレッジ」の学長には本学の藤田佳久文学部教授が就任された。9月12日から1月23日まで多彩な講座が組まれ、60名にのぼる受講生が毎回熱心に参加している。

### 【穂の国エコカレッジカリキュラム】

回数	月 日	時間 *開始時間注意	場所	内 容
1回	9/12	13:00~16:30	愛知大学豊橋校舎 研究館1階 第1・第2会議室	・開校式 & 総論:生物多様性とは何か I.気候と植生 II.生物多様性と持続可能性 横田浩臣氏(愛知池周辺の環境を考える会・座長、名古屋大学名誉教授)
2回	9/19	14:00~17:00	愛知大学本館5階	・穂の国における生活空間の歴史的展望 I.古代 II.中世・近代以降 藤田佳久氏(愛知大学教授)
3回	10/10	8:30~12:00	フィールドワーク	・赤岩山自然観察 植物、昆虫、鳥獣 中西 正氏(三河生物同好会・会長)
4回	10/24	13:20~15:00	愛知大学本館5階	・穂の国の生態系 I.三河湾の生物と環境 石田基雄氏(県水産試験場研究部長)

5回	11/14	9:00~16:30	フィールドワーク	・豊川・音羽川 ・穂の国の生き物 I.獣害と奥山生態系 鈴木利典氏(県自然環境課長補佐) II.豊川の生物の変化 小山舜二氏(元県水産試験場研究員)
6回	11/28	13:20~16:30	愛知大学本館5階	・穂の国の産業 I.三河湾の漁業 中村元彦氏(県水産試験場主任研究員) II.奥三河の林業の歩み 森田 実氏(穂の国森づくりの会事務局長)
7回	12/12	13:20~16:30	愛知大学本館5階	・林業体験 間伐等(穂の国森づくりの会)
8回	12/19	9:00~16:30	フィールドワーク	・穂の国の地質・岩石 横山良哲氏(元鳳来寺山自然科学博物館館長)
9回	1/16	9:00~16:30	フィールドワーク	・穂の国の生態系 I.豊川ネットワークを支える生態系 藤田佳久氏(愛知大学教授)
10回	1/23	13:20~12:00	愛知大学本館5階	

## 三遠南信地域連携センターWEBサイト再構築のご案内

当センターが設立されて4年以上が経過した。その間様々な取り組みを行ってきたが、情報発信には不十分な点があり、その周知や意見集約において皆様にはご迷惑をおかけしており、まずは、この場をお借りしてお詫び申し上げる。

私どもは、あらためてWEBサイトの更新体制を見直し、現状にあったWEBサイト更新の手法を検討してきた。その結果、従来のWEBサイトでは、ページ作成・更新が専門知識をもつ人材のみしか扱えなかつたことなど管理体制が不十分であることが明らかとなつた。見直しでは、それを改善する手法がいくつか提示されたが、最も重視したのは、日常の更新等のメンテナンスとデータ管理の容易さである。

従来のWEBサイトのメンテナンス性の悪さを軽減するために、CMS(コンテンツマネジメントシステム)の活用が、現在では一般的になっているという背景もあって、その導入を検討した。CMSの特徴は、全てのコンテンツがデータベースで一元的に管理されている点で、これによって、コンテンツの日常の管理スキルはワープロソフト程度で可能となり、更新が劇的に容易になつている。

当センターでのWEBサイト

の運営体制を考えた場合でも、通常の更新内容については、特別な加工をする必要性は低いと判断し、遅ればせながら、より現実に即した情報発信が可能なCMSを導入した。

新たなWEBサイトの構成は、「お知らせ・ご案内」「センター概要」「取り組み」「刊行物」のみの構成となっている。ただし、最新の更新記事がトップページに表示されるようになっており、情報はすぐにお伝えできるだろう。また、これまでお伝えすることができなかつた活動や、その詳細、記事の更新や追加・修正、さらに過去の記事の再構築なども随時可能である。

現在は、サイトの構成や設置のチェックも同時進行で行っているため、完成版ではないが、情報発信を最優先に、発信する情報を再整理し

ながら、サイト構成も随時更新していく予定である。そのため、当面、サイトは試験運用となっているが、ご容赦いただきたい。なお、今後もご意見やご感想等を伺えれば幸いである。

引き続き皆さまのご理解とご支援を賜りますよう心よりお願ひ申し上げる次第である。



<http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/>

# 地域づくりサポーターの活動から

## 豊橋駅前商店街での駄菓子販売

現在、豊橋駅近くのときわ通りの商店街は人通りも少なく閑散としている。そこで私達、地域づくりサポーターは、商店街がかつての活気を取り戻せるように駄菓子屋「だがしかん」を開くことにした。

今年度の5月9日に「ときわ逸品館」内でオープンしたが、すぐに2つの問題点がうかびあがつってきた。

まず、1つ目の問題点は営業場所が「ときわ逸品館」の奥のスペースでの営業となるので、ときわ通りを通りに「だがしかん」を気づいてもらえないことである。そこで私達は少しでも多くの人にだがしかんを知ってもらい、足を運んでもらおうと思い、チラシを作成し近隣の小学校や商店街を通る方に配るなどの宣伝活動を行った。また、1回きりの

来店ではなく、何回も来てもらえるようにポイントカードの作成をするなどの工夫もした。その結果、徐々に来客者数が増加し、月に1回のこども未来館の営業では、1日に約300人の方に来てもらえるようになった。

2つ目の問題点は商店街の方や子供達とのコミュニケーションの取り方である。オープン当初は普段接しない方達とどうやって接していくかわからず、コミュニケーションがうまくとれなかつた。そこでドッヂボール大会や駄菓子の重さ当てゲームなどのイベントを開催し、それらを通して子供達と会話ができるように努めた。また、商店街の方にはこちらから積極的にあいさつをしたり、8月に商店街で行われた「ときわ夏祭り」に参加させてもらい、一緒にときわ通りを活気ある商

## 経済学部3年 乙部 篤史

店街にするよう活動した。

12月26日までの営業なので、あと少しの活動だが、少しでも多くの人に「だがしかん」を知ってもらい、学生らしく元気のある営業を行いたいと思う。



## 水源の里と連携して野菜販売

CS(コミュニティサポート)事業は、中山間地域支援を大きな目的としている。今年度は、高齢者支援と中山間地域の水源地保全を目的として、東栄町のNPO法人・ななさとぐるーぷと協働して東栄町の余剰野菜の販売を行っている。

6月中旬から野菜販売を始めて、これまで様々な問題に直面してきた。例えば、販売当初は量り売りを採用していたが、量り売りに集中することでお客様とコミュニケーションがあまりとれないということから、あらかじめ袋詰めした状態で出荷してもらうこととした。これによりお客様と会話する時間も増え、準備にかかる時間も短縮する事が可能

になった。野菜販売を行うたびに新しい課題が見つかり、毎回試行錯誤の繰り返しだが、自分たちで色々と工夫して改善することにやりがいを感じている。また、徐々にリピーターも増えつつあり、毎回野菜販売を楽しみにしている方がいることも私たちにとってはやりがいの一つになっている。

今まで、私たちはななさとぐるーぷ側としか連絡を取っておらず、生産農家とはななさとぐるーぷを介してしか連絡をとっていなかった。そのため、農家の顔も分からず、農家の方がどんな思いで野菜を作っているのか、途中、野菜販売を行う目的を見失いかけていた時期もあった。やはり農

## 経済学部4年 近藤 由衣



家に直接会って話がしたいという強い思いをななさとぐるーぷに伝え、その結果農家へのヒアリングの機会を作っていた大哥

とができた。野菜販売の目的を再確認すると同時に、農家の気持ちを直接聞いたことで販売への意欲向上に繋がった。

今後も12月末まで野菜販売に精力的に取り組んでいくとともに、生産農家にも豊橋に来ていただきサポートーと一緒に販売

を行うことや、農家との交流会も行いたいと考えている。

## サマーカレッジチャレンジショップ

8月に行われたサマーカレッジチャレンジショップに今年も参加した。サポートーとしてのチャレンジショップへの参加は、今年で2回目になる。

愛知大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学の三大学の学生が主体となり、豊橋駅前の活性化を目的とし、空き店舗を利用した店舗運営は、今年で8回目だ。

2009年度は「食農」という大きなテーマのもと「東三河の特産物を学ぼう」をテーマに掲げた。店舗では、豊橋のナスやトマトなどの地元特産品を使ったオリジナルバーガーをはじめ、ハックルベリーやルバーブのオリジナルジャムパンを販売した。その他、天野商店さんの花火や童里夢さん、ラ・バルカさんのパンの委託販売も行った。また、まちなかに賑わいをつくるために、

530運動や音楽祭などのイベントを開催した。その中でも、小中学生や高校生による店舗参加が印象に残っている。オリジナルタオルを首に巻き、一生懸命にレジ打ちをしている小中学生の姿は微笑ましかった。そして、高校生の店舗参加により、大人数でティッシュ配りをすることができた。ティッシュ配りの効果もあり、1日平均で37名の方が来店してくださった。運営終了後には、商店街の方から「元気に活動してくれたから商店街も元気になった」と声をかけていただき、目的であった豊橋駅前の活性化に役立てたと感じた。

営業日に毎日手伝いに来てくれた大家さんのお孫さんも印象に残っている。「I♡TOYOHASHI」のロゴの入ったオリジナルTシャツを着て、店舗運営を手伝ってくれ

## 短期大学部2年 竹内 千晶

れた。大家さんも優しく「もう少し宣伝したほうが良い」と店舗に関するアドバイスも多くいたいた。来店者の方だけでなく、大家さんをはじめ、商店街の方とも交流を持てたことも嬉しく感じた。



## 三遠南信地域連携センター活動記録(2009.4~2009.10)

月	日	曜日	研究室・委員会等名	会場	出席者・概要
4月	4日	(土)	2009年度共同提案事業「リバーウォーク みんなで歩こう豊川」プレ&ミニイベント実施 プレ・リバーウォーク第1回及び4グループの会	長篠城から野田城他	岸本
	9日	(木)	運営委員会(09-01)	センター事務室	
	23日	(木)	運営委員会(09-02)	センター事務室	
	30日	(木)	GIS Day in 愛大2009 GISが解き明かす地域のすがた 一住民・地域・自治体一	情報メディアセンター 413教室	第1部:基調講演 活用事例から学ぶGISの利用価値と導入効果 名和裕司氏(ESRIジャパン株式会社) 第2部:研究・活動報告 ・GISを利用した地域づくりの実験 蒋 淳 ・高大連携による豊橋交通量の調査紹介 鈴木加代子氏(豊橋商業高校教諭) ・地域づくりサポートーによる活動報告 村田裕志(地域づくりサポートー) ・流域大学卒業生のマップ作成活動報告 平川雄一(愛知大学非常勤講師) ・自治体と大学の連携による取組み紹介 澤田貴行氏(東栄町役場)
5月	3日	(日)	2009年度共同提案事業 新城エコファーマー2009 春のイベント 「水の絆の再生を目指す環境保全活動と交流推進事業」	新城市上平井地区	鈴木伴
	6日	(水)	2009年度共同提案事業「リバーウォーク みんなで歩こう豊川」プレ&ミニイベント実施 豊川リバーウォーク準備委員会	新城まちなみ情報センター	岸本
	8日	(金)	日本福祉大学知多半島総合研究所の聞き取り調査 第1回地域づくり読本勉強会	日本福祉大学半田キャンパス 研究館1階 第1会議室	センター長、岸本、曉、鈴木伴、加治 講師:戸田敏行氏(社団法人東三河地域研究センター常務理事) 「三遠南信」とは何か -三遠南信をめぐる理念と取組みの過去・現在・未来- センター長、森嶋、岸本、曉、鈴木伴、加治 地域づくりサポートー(磯野、大島、大橋、近藤、中村)
	10日	(日)	2009年度共同提案事業「水の絆の再生を目指す環境保全活動と交流推進事業」 (梅川リバーウォーク1stイベント)	梅田川植田橋付近	鈴木伴

月	日	曜日	研究室・委員会等名	会 場	出席者・概要
5月	14日	(木)	運営委員会(09-03)	センター事務室	
	16日	(土)	2009年度共同提案事業「リバーウォークみんなで歩こう豊川」プレ&ミニイベント実施 豊川リバーウォーク・コース3	新城市長篠地区	岸本
	23日	(土)	2009年度共同提案事業「水の糸の再生を目指す環境保全活動と交流推進事業」 (前芝5月のイベント)	前芝海岸	鈴木伴
	28日	(木)	運営委員会(09-04)	センター事務室	
	29日	(金)	第2回地域づくり読本勉強会	研究館1階 第3会議室	講師:櫻村愛子(文学部教授)「～地域づくり～というイデオロギーをめぐって～」
6月	2日	(火)	平成21年度「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会」総会	ホテルアソシア豊橋	センター長、黍嶋、田邊、佐藤正之(豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員)
	11日	(木)	運営委員会(09-05)	センター事務室	
	13日	(土)	2009年度共同提案事業「リバーウォークみんなで歩こう豊川」プレ&ミニイベント実施 豊川リバーウォーク・コース0	新城・段戸山	岸本
	20日	(土)	2009年度三遠南信コミュニケーション『三遠南信の「食」を考える』 第1回講座:三遠南信の「食」の現在とこれから	本館5階 第3・4会議室	講師:加藤勝敏氏(社団法人東三河地域研究センター調査研究室長)
	25日	(木)	運営委員会(09-06)	センター事務室	
	27日	(土)	2009年度三遠南信コミュニケーション『三遠南信の「食」を考える』 第2回講座:「食」における安全・安心の現状と地域の課題	本館5階 第3・4会議室	講師:功刀由紀子(副学長)
7月	4日	(土)	2009年度三遠南信コミュニケーション『三遠南信の「食」を考える』 第3回講座:「食」による地域振興の取組み	本館5階 第3・4会議室	講師:中野和久氏(サイエンスクリエイト代表取締役専務)
	9日	(木)	運営委員会(09-07)	センター事務室	
	11日	(土)	2009年度三遠南信コミュニケーション『三遠南信の「食」を考える』 第4回講座:「食」における地域ブランドの創出	本館5階 第3・4会議室	講師:中野 真氏(経営革新研究所代表)
	15日	(木)	県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会 第1回人材育成・意識啓発AP開発部会	研究館1階 第1・2会議室	武田、黍嶋、岸本、センター長(オブザーバー出席) 大貝彰氏、松島史朗氏、谷武氏(豊橋技術科学大学) 伊藤俊弼氏(NPOななさとぐるーぶ)、大平展子氏(NPO夢未来くんま) 瀬野尾充恵氏(愛知県新城市鳳来総合支所)、仲村茂樹氏(長野県飯田市) 山肥田徳文氏(愛知県地域振興部)、畠勝之氏(静岡県西部地域支援局) 古賀元也氏(豊橋技術科学大学)、佐藤正之(豊橋技術科学大学) CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会非常勤研究員)
	18日	(土)	2009年度三遠南信コミュニケーション『三遠南信の「食」を考える』 第5回講座:複合農園で自家消費、自然の味にこだわる 三河コンヴェクションアカデミー第16回ウィークエンド・セミナー 七郷一色地区納涼会	本館5階 第3・4会議室 新城市鳳来地域間 交流施設	講師:岡本美幸氏(農事組合法人トンキラ農園代表) 「水の糸の再生を目指す地域づくり活動」～住民主体の豊川流域圈づくりの推進～ 野田賛司氏・加藤正敏氏(愛知大学とよがわ流域大学修了生・まいパンク協議会) 参加者:センター長、岸本、山本、地域づくりサポートー(清川、近藤)
	23日	(木)	運営委員会(09-08)	センター事務室	
	25日	(土)	2009年度三遠南信コミュニケーション『三遠南信の「食」を考える』 第6回講座:安全・安心・新鮮で「地産地消」をめざす 東栄町東薗目地区「現地調査結果報告会」	研究館1階 第1・2会議室 東栄町東薗目地区	講師:白井良始氏(あぐりパーク食彩村代表)
	26日	(木)	2009年度共同提案事業「人と人が寄り添うまちづくり」-豊川市当古地区-」聞き取り調査	豊川市当古町公会堂	岸本、曉
	27日	(木)	第1回三遠南信サミット2009in東三河専門委員会	豊橋市役所	センター長、曉
8月	3日	(木)	運営委員会(09-09)	センター事務室	
	4日	(金)	2009年度共同提案事業「人と人が寄り添うまちづくり」-豊川市当古地区-」聞き取り調査	豊川市当古町公会堂	曉
	12日	(土)	平成21年度環境省補助事業(COP10パートナーシップ事業) 穂の国工コカラッジ 開校式&総論:生物多様性とは何か	研究館1階 第1・2会議室	I. 気候と植生 II. 生物多様性と持続可能性 講師:横田浩臣氏(愛知池周辺の環境を考える会・座長、名古屋大学名誉教授)
	19日	(土)	平成21年度環境省補助事業(COP10パートナーシップ事業) 穂の国工コカラッジ 第2回:穂の国における生活空間の歴史的展望	本館5階 第3・4会議室	I. 古代 II. 中世・近代以降 講師:藤田佳久(愛知大学教授)
	23日	(木)	運営委員会(09-10)	センター事務室	
	25日	(金)	2009年度共同提案事業「人と人が寄り添うまちづくり」-豊川市当古地区-」聞き取り調査	豊川市当古町公会堂	曉
	26日	(土)	2009年度共同提案事業「リバーウォークみんなで歩こう豊川」プレ&ミニイベント実施 豊川リバーウォーク第8回準備委員会	新城まちなみ 情報センター	岸本
	30日	(水)	東栄町「健康づくり大学」事業推進協議会	東栄町役場 2階会議室	センター長
	10月				
10月	2日	(金)	第3回地域づくり読本勉強会	研究館1階 第1会議室	講師:延藤安弘氏(愛知産業大学大学院造形学研究科建築学専攻 教授) センター長、黍嶋、岸本、曉、佐藤、地域づくりサポートー(磯野、中村)
	4日	(日)	七郷一色体育祭	新城市鳳来地域間交流施設	岸本、山本、地域づくりサポートー(大島、木村、近藤、竹内、平井、村田)
	6日	(火)	三遠南信しんきん農商工連携フォーラム	ホテル日航豊橋	センター長、黍嶋、曉
	10日	(土)	平成21年度環境省補助事業(COP10パートナーシップ事業) 穂の国工コカラッジ第3回:フィールドワーク	赤岩山自然観察	講師:中西 正氏(三河生物同好会 会長)
	22日	(木)	運営委員会(09-11)	センター事務室	
	24日	(土)	2009年度第1回三遠南信地域連携センター会議 平成21年度環境省補助事業(COP10パートナーシップ事業) 穂の国工コカラッジ第4回:穂の国の生態系	研究館1階 第1・2会議室 本館5階 第3・4会議室	三河湾の生態系と環境 講師:石田基雄氏(県水産試験場研究部長)
	30日	(金)	2009年度共同提案事業「人と人が寄り添うまちづくり」-豊川市当古地区-」聞き取り調査	豊川市当古町公会堂	曉

## 編集後記

11月11日から政府の行政刷新会議ワーキンググループによる「事業仕分け」が始まり、各種国家事業の廃止や予算削減などの具体的な結果が報道されている。当センターは、文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業(社会連携)」の採択を受け、今年で最終年度の5年目を迎えており、競争的資金の獲得を前提として設置されたという経緯から、次年度以降の「あり方」について見直すことが確認されており、愛媛版「事業仕分け」の対象となっている状況である。こうした状況ではあるが、今年度もセンターの目的を達成するための事業(地域連携、基礎研究、教育・人材育成)を実施する他、文部科学省事業の研究成果の取り纏めに向けた作業を行っていく予定である。本号では、巻頭言を飯田商工会議所宮島会頭にお寄せいただき、上半期の主な事業の内容を中心に掲載している。是非、お読みいただき、センターの活動について、理解を深めていただければ幸いである。(T)

表紙写真:新城桜淵公園より豊川下流を見て

## 編集・発行

愛知大学三遠南信地域連携センター運営委員会

〒441-8522 愛知県豊橋市町畠町1-1

Tel : (0532)47-4157 Fax : (0532)47-4576

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/>

Email : [sen-center@ml.aichi-u.ac.jp](mailto:sen-center@ml.aichi-u.ac.jp)

発行日 : 2009年12月25日